

第3回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成15年3月25日(火)13:30~16:30

項目	発言者	意見	内容	対応
<鴨川水系河川整備基本方針>				
治水	A委員	過去の洪水及び放水路の分水地点について	(1)過去における洪水時の流量(規模)はどのくらいなのか。 (2)放水路の分水地点をさらに上流に設置することはできないのか。	(1)過去の洪水流量(※近年最大H10.7.30)は、市道並木町6号線の水位観測地点において15m ³ /s程度だったと考えられ、現況流下能力を上回る規模のものである。 (2)分水地点をさらに上流とした場合、残流域が大きくなり、浸水被害の発生している魚津市中心市街地における治水効果が十分得られないことが懸念される。また、放水路の整備延長は増大し、不経済になることが想定される。
	B委員	整備期間について	鴨川放水路の整備期間はどの位になるのか。中川放水路のように長期間の整備となるのか。	予算の関係もあるが、できるだけ早期に効果を発現できるようにしたいと考えている。概ね20年以内を目途に整備したいと考えている。
河道	C委員	放水路主要緒元について	次のことについて説明してほしい。 (1)放水路の形式について。 (2)放水路の機能について。 (3)主要地点における計画高水流量について	(1)放水路計画は道路敷内に地下河川として整備する。 (2)放水路は洪水時のみ機能する。 (3)放水路は基準地点直下流で洪水全量(24m ³ /s)をカットするもので、分水地点下流主要地点の7m ³ /sは、残流域からの流出量を示している。
治水	D委員	浸水被害の要因について	一般的な浸水被害の発生要因として、流域開発に伴う流出量の増大が挙げられるが、鴨川の浸水被害の主原因はどうか。	流域開発に伴う流出量の増大も一要因と考えられるが、どちらかという、河道の流下能力不足とそれに伴う内水が主原因と考えている。
環境	E委員	放水路内の環境対策について	放水路整備にあたって、環境面に配慮すべき点等があるのか。	放水路は、地下河川であり、洪水時のみ機能する特異な河川形態であることを勘案すると、環境対策の必要性は低く、具体的な対策は考えていない。
	F委員		放水路の環境対策についての考えを示されたい。	

第3回 富山県河川整備計画検討委員会における主な意見と対応

平成15年3月25日(火)13:30~16:30

項目	発言者	意見	内容	対応	
<庄川水系庄川圏域河川整備計画>					
環境	E委員	生物との関連について	希少種であるメダカ、ナマズが地久子川に生息する。河川計画を立案する際に留意願う。	地久子川の多自然型川づくりについては、それらのことも考慮し、方針を立てている。整備計画よりさらに詳細な検討を行う詳細設計で十分検討していきたい。また、工事实施の際に十分に配慮したい。	
	F委員		ナマズの生息条件で大事なことは、排水路と水田の間に段差がないことである。改修に際しては、ナマズの生息も配慮願う。		
	G委員		生物など環境への影響については、工事後も長期的な視点に立ってフォローするべき。		
	F委員	横断形状について	法勾配が緩勾配とする理由が親水性であったが、水質がそれほど良好か疑問である。		
	E委員	河床が狭いと、河床の植被率が小さくなり、魚類も少なくなるという相関性があると言われている。川幅を確保しつつ河床幅も確保する方法も考えて欲しい。			
治水	C委員	治水計画について	治水計画と都市計画の調整が全くされていない。浸水を前提とした土地利用、住宅の構造を誘導していくという検討も必要ではないか。	私権の制限を伴い、私有財産の価値を下げかねないため、現行法の下では困難と言わざるを得ない。しかしながら、過去の浸水実績や氾濫想定区域の公表など、情報公開の観点から研究していきたい。	
	A委員		地久子川は市街化に伴って浸水被害が顕著になったと聞いたが、都市計画を立案する際に考慮しないのか。		
高水	D委員	流出計算について	高水流量算出の際の流出係数ほどのくらいか。	市街地で0.8、水田で0.7としている。	
	H委員	降雨解析について	集中的な豪雨が多発している。気象の変化に柔軟に対応できる計画を望む。		地球温暖化の影響については、定量化が難しいため、計画に盛り込むことは困難である。
	E委員		温暖化が気象に与える影響は、時間的・空間的な2極化である。将来の気象変動を見越して対応すべき。		
管理	I委員	堤防の除草について	堤防の草刈りなど、河川の管理に住民参加を期待するのは難しい。	従来から住民の協力を得ているところも多くあり、今後とも、より協力を得やすいようボランティア支援制度を創設する予定である。	